



初等部だより 2月号

鎌倉女子大学初等部

令和2年1月30日

第12号

書 字

部 長 勝 木 茂

先日1月20日(月)の朝礼で、今日が二十四節気の大寒のあたる日で、これから2週間くらいが1年中でいちばん寒い時期だという話をしました。(もっともその日は、3月上旬の様な暖かさでした)2月4日の立春が過ぎても、まだしばらくは寒い日が続きます。手洗い、うがいをはじめ、十分な睡眠と栄養等、インフルエンザや風邪の予防には細心の注意を払いたいところです。特に、中学受験真っ最中の6年生には、万全の健康状態で試験に臨めることを職員全員で祈っております。

ちなみにその日の朝礼では、「大」の字がついた大寒はあるけれど、「小」の字がついた小寒はあるのかな?とも話しておきました。(答えは伝えていません)お子さんとご家庭でそのような話題で会話をするのも、子どもたちが様々なことに興味・関心をもつことにつながるかなと思っております。



さて、先日、現1年生が午前授業で下校した午後、新年度入学生「体験授業」を、翌々日には幼稚部の保護者の方を対象とした初等部授業参観を行いました。その中で、多くの保護者の方から、「どの子の字も整ってきれいですね」「しっかりとした字ですね」「この字、1年生が書いたんですよね?」「どうしてこのようにみんなが書けるのですか?」等のお褒めの言葉をいただきました。丁度その時期は、1・2年生は廊下の掲示板には硬筆の「書初め」が掲示されていました。

もちろん、入学当初からそのような字が書けるわけではありません。初等部では、どの教科等の授業においても、「きめ細やかにていねいに」ということを指導上大切にしています。特に「書字」においては1年生の1学期より一人一人に寄り添いながら、粘り強く繰り返し指導をしています。

入学当初の1年生には、自分の名前をひらがなで書ける子が結構います。でも、その字は筆圧が不十分で整っていない場合がほとんどです。1年生の書字指導は、「ひらがな」からです。それも多くの場合、簡単で書きやすく覚えやすい例えば「い」のような文字から始めます。初等部では、文字を正しく整えて書くことができるよう、文字を書くための正方形のマグネット黒板を使用します。(書画カメラに映し出すこともあります)書写の教科書には「字を書く姿勢」について、「足」をしっかりと着け、「背中」を伸ばし、「お腹と背中」と机や椅子との距離について分かりやすく示されています。

しかしながら大切なことは、教師が「お手本」になる字を子どもたちに示して、「さあ、こんなふうを書いてみよう」と言うだけでは決して書けないということです。文字の形や大きさ、筆順はもちろんのこと、その子の書くときの姿勢、鉛筆の持ち方、鉛筆を持っている手と反対の手でしっかりと用紙を押さえているか(そうではないと適度な筆圧はかかりません)等について、一人一人に繰り返し繰り返し、地道に、「ここは上手だね。この部分はこうするともっとよい字になるよね」「反対の手を置いている場所をもう少し上に見ようね」……。その子にある程度の自信がつくまで、「きめ細やかにていねいに」指導をしていきます。そして、1ヶ月、2ヶ月……。その積み重ねの中で、今回の様な「書初め」にようやくたどり着くことが出来るのです。初等部では、これからもこのような地道な指導を大切にしていきたいと考えています。